


第39話

Bbカンファレンス2009in大阪 参加記

「最初に自分の仕事を済ませると余裕で参加できる」の巻

- ・ 詳細なWeb上の開催報告: <http://csklc.jp/event/091204.html>
- 2009.12.4-5@大阪大学中之島センター+CSKシステムズ西日本
- ・  **招待講演**「学習力アップのためのeラーニングデザイン」
- 予稿(A4カラー版8頁)+動画(79分49秒スライド付)=円熟期に到達?
- 真打昇進それとも前座か:出番即終了。でも2日間フル参加(余裕!)
- ・ **パネル**:BeeDanceで双方向性を確保。熊大はすごい?
- ・ **WS2**:大学へのeラーニング普及の分岐点は2割を超えること
- 何を持って2割とするのか?普及は絶対命題か?
- ・ **WS2**:システムの**中核**はLMSではなくポータルサイトだ!
- 大学のeラーニングは学務システムとの連携が前提
- ・ 企業展示:**ペルソナ**を大学広報に活用する時代が来た!
- ・ 「**学習力アップ**」にはIDの理論的バックボーンが有効!
- cf. [FD担当者のID的基礎とは何か](#)(2009.12.19.JSET研@京都外大)

詳細は
こちらで

「Bbカンファレンス2009 in OSAKA」を開催しました！

[カンファレンスのご報告についてはこちら](#)

CSKシステムズ西日本は「Bbカンファレンス2009 in OSAKA」を、2009年12月4日(金)から5日(土)に大阪大学中之島センター、CSKシステムズ西日本本社にて開催しました。

今回のカンファレンステーマは「効果的なeラーニングの活用」とし、基調講演、「ICT活用教育における利用者支援の取組みについて」をテーマにしたパネルディスカッション、各大学からの発表であるポスターセッション、4つのテーマに分けて実施したワークショップなどユーザー様の積極的なご参加による盛りだくさんの内容となりました。

日時: 2009年12月4日(金) 13:00~18:00
2009年12月5日(土) 09:00~15:30
会場: 12月4日(金):大阪大学中之島センター
12月5日(土):CSKシステムズ西日本
主催: 株式会社CSKシステムズ西日本
協賛: ブラックボードジャパン株式会社 / Blackboard Inc. / ソフトバンクモバイル株式会社
協力: アップルジャパン株式会社

[基調講演1](#) | [基調講演2](#) | [企業講演](#) | [パネルディスカッション](#) | [ポスターセッション](#) | [ワークショップ](#) | [主催挨拶](#)

基調講演 1

[PageTOP](#)

▶ 学習力アップのためのeラーニングデザイン



鈴木 克明
熊本大学大学院 教授システム学専攻 教授・専攻長

予稿

動画

PDF:2,273kb

eラーニングの質をアップするための枠組みとして「eラーニング質保証レイヤーモデル」を紹介する。eラーニングで大学等の学習環境を整えることを通して、学生の学ぶ力を高めるためのヒントを インストラクショナルデザイン研究の視点から整理する。eラーニングを始める決断を促し、実践を振り返ってもっとよくする切り口になるように願います。

基調講演 2

[PageTOP](#)

▶ iPhoneで変わる大学生活と教育の可能性



浜野 誠
ソフトバンクモバイル株式会社
営業第三本部 ビジネス推進統括部 担当課長

青山学院大学の社会情報学部にて在席する全ての学生にiPhone 3Gが配布されるなど、モバイルインターネット新時代の到来とともに教育の現場も大きく変化しようとしています。今回の講演では国内および海外での大学などにおける導入事例や企業内のeラーニングでのiPhoneの活用方法などを映像やデモを交えながら詳しくご紹介します。

イベント情報 Bbカンファレンス2009 in OSAKAを開催しました！

カンファレンスプログラム / 詳細については [こちら](#)

2009年12月4日(金)、5日(土)の2日間にわたり、Bbカンファレンス2009 in OSAKA「効果的なeラーニングの活用」を開催いたしました。ICTを活用した教育方法の改善や利用者である教員への支援、また学生サービスへの展開を踏まえ、いかに効率的、効果的に取り組むか？という課題についてご参加いただいた皆様での意見交換、情報交換が活発に行われたと記憶しております。

基調講演では、鈴木先生から「インストラクショナルデザイン(ID)」の考え方を中心に効率的、効果的、魅力的な教育方法への授業改善についての講演内容でした。この考え方はまさに今、高等教育機関が問われている「教育の質保証」に関しての示唆がありました。また、浜野氏の講演ではモバイル端末を利用した教育現場での実例を挙げ、新たな視点での教育方法の可能性を紹介する内容でした。

パネルディスカッションではLMSを全学レベルで推進している大学から、各支援組織のご担当者にご参加いただき、それぞれの支援体制や内容などのご紹介の後、活発なディスカッションが展開されました。各大学とも特色があり客席の皆様にも参考になる内容となりました。また、ポスターセッションやテーマごとに分かれたワークショップなどを通し情報収集、意見交換、情報交換を行う相互交流の場として活発な議論がなされました。参加された皆様からは、日ごろあまり接することのない他大学の状況や、事例などに触れることができ、非常に有意義であったと好評を得ました。

昨年より開催しておりますBbカンファレンスではアドバイザリーボードの皆様のご意見を頂戴し企画、運営されております。弊社としてもユーザー様と密に連携したカンファレンスを今年も実現できたことを大変喜ばしく思っております。

<参加者の声(アンケートから抜粋)>

- ・教育内容と教育方法とを明確に分離して、後者のトレーニングが今後、必須の課題である事を感じた。(基調講演 1)
- ・IDの必要性、重要性は理解できる。大学教員として鈴木先生の講演内容を他の教員にも広げたい。多くの教員は学生の評価・効果測定を行う方法が知りたい所である。(基調講演 1)
- ・自身の講義改善のきっかけとして、参考になった。(基調講演 1)
- ・IDが利用できる環境であれば、授業の可能性が広がるのが参考になった。(基調講演 2)
- ・BeeDanceを使っている点などはとてもわかりやすく面白い機能だと感じました。私自身これまで大学生であったので学生と近い立場で臨むことが出来たように思います。(基調講演 2)
- ・利用を拡大していくために、各大学が行っている取組は非常に参考になった。(パネルディスカッション)
- ・現場のサポートの実践事例について本学でも利用できるものがあり、参考になった。(パネルディスカッション)
- ・パネルディスカッションでの内容確認もでき有意義であった。(ポスターセッション)
- ・個別に色々とお話が聞ける形式で良い感じでした。(ポスターセッション)
- ・全体の問題の概観ができる構成で良かったと思います。(ワークショップ)





招待講演「学習力アップのための eラーニングデザイン」

- eラーニングの導入がやりっぱなしの教育を防ぐ
- 授業改善をどう実現するか？ (気持ちとスキル+構造化+サポート)
- 授業改善の目的は教育効果の向上だけではない: ID の3つのゴール
- IDの視点で大学教育をデザインする鳥瞰図 (レイヤーモデル含む)
- eラーニングをここから始めよう (ネタ探し+リンク集+クイズ+BBS+PF)
- 授業設計論 (ID: Instructional Design) を援用する
ARCSモデル (教材づくり編* + 学習者編**) + 9教授事象
 - * <主張: 関心・意欲・態度のなさは学生の責任ではない。授業を魅力的にしましょう! >
 - ** <主張: 学生をいつまでも甘やかしてはいけない。やる気を自分でコントロールさせよう! >
- 大学教育の今後に向けて—IDとeラーニングの役割—



■ 大学教育の今後に向けて —ID とe ラーニングの役割—

1. e ラーニングをどう使うかを考えること通して大学組織の特徴や教育機能を棚卸しする
2. 大学職員がID を学び、教員（内容専門家=SME）と協働で大学運営にあたる教育専門職になる
3. 大学教員がID を学び、教育工学を研究領域（所属学会）に加える
4. 大学生にスタディスキルとしてID を学ばせて「自分で学べる人」にして卒業させる
5. 関係者全員がICT 環境を活用して「いつでも学んでいる人」でいられるようなe ラーニング環境を構築・提供する

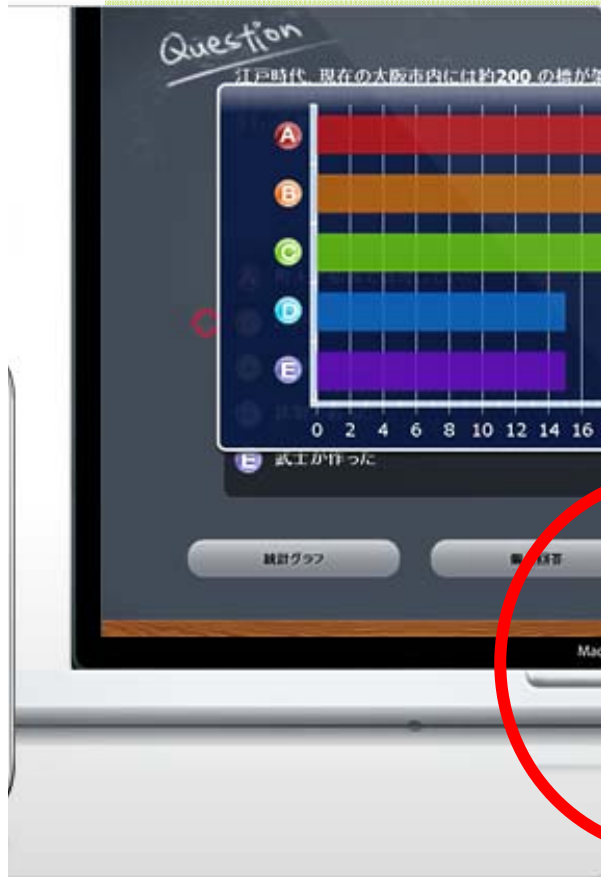




学生レスポンスシステム
BeeDance

パネルディスカッション

「ICT活用教育における利用者支援の 取組みについて」



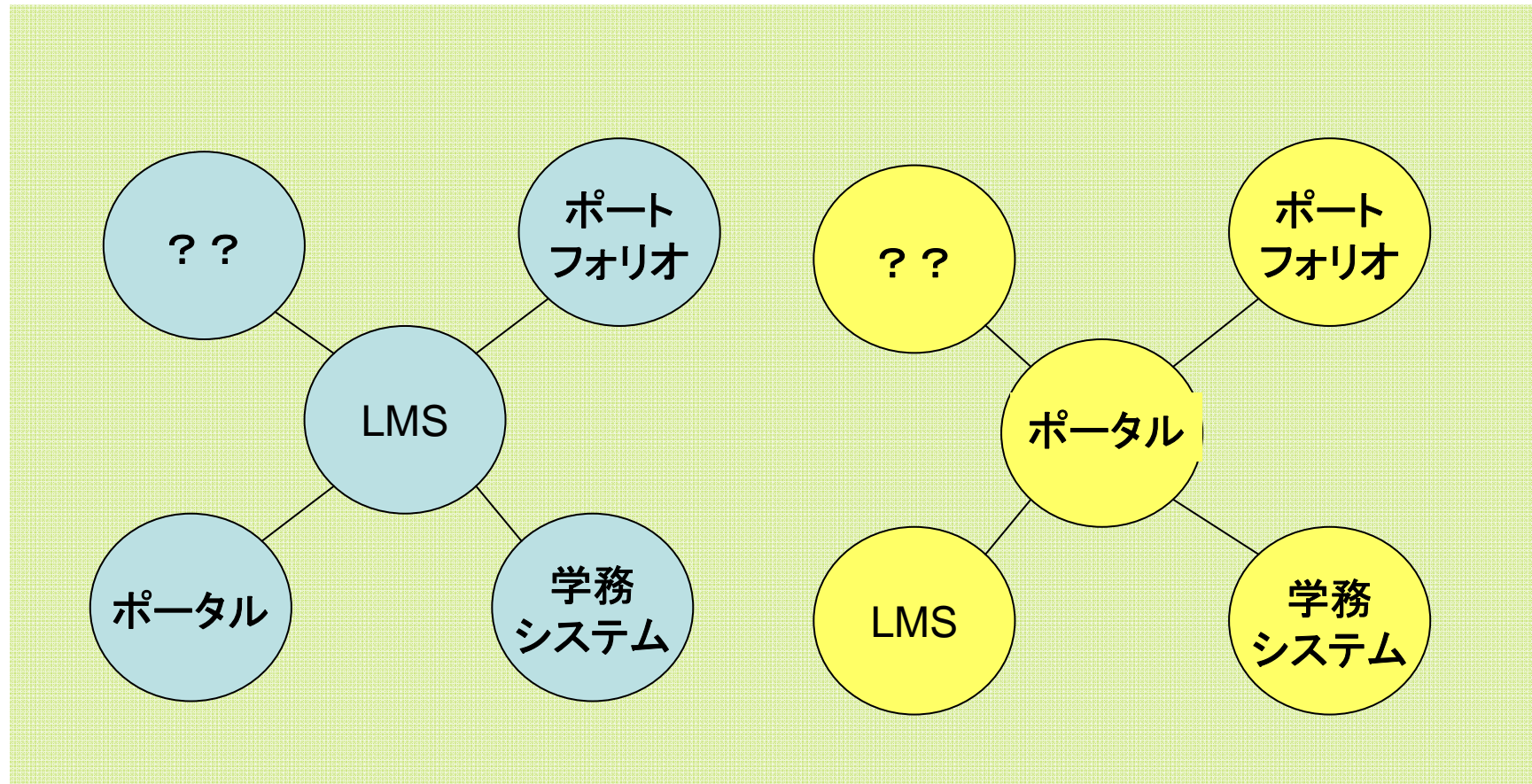


ワークショップ 2: ICT活用 教育の利用者支援

- 【コーディネーター】 熊本大学 総合情報基盤センター 中野裕司
事前に寄せられた質問をもとに、支援組織がどのレベルまで教員を支援できるのか—支援内容や必要スキルに関する議論、ICTの利用率の尺度、利用率を測定する目的についての議論などがありました。終盤の著作権に関する議論は参加者の関心も高く積極的な意見の交換が行われました。



WS2:システムの中核はLMSではなく ポータルサイトだ！（by中野教授）





質の高い教育を目指すFDを構築するための学生 視点・ニーズ、社会ニーズの獲得ソリューション

- 注目の最新マーケティング手法ペルソナ戦略を活用し、現状の学生の潜在ニーズの把握・インサイトの発見を行い、深い学習理解を獲得
- 主要就職先の取材とオープンデータの入手により、貴学に対する社会からのニーズを把握
- 以上をインプットに教員・スタッフ参加型のワークショップを行い、教育における貴学の社会への価値（コアバリュー）を踏まえながら、学生の視点を経験し把握
 - エクスペリエンスデザイン手法
 - ペルソナジャーニーセッション



鈴木克明(2009.12) ファカルティ・ディベロッパーのID的基礎とは何か 日本教育工学会研究会(FDの組織化・大学の組織改革／一般) 京都外国語大学

- 詳しくはまた機会があればお話しします・・・(ネタ温存)
- あらまし:大学の教育改善を組織的に進める専門職(ファカルティ・ディベロッパー)に必要な基礎としてインストラクショナルデザイン(ID)の何が不可欠かを考察する. 授業実施やカリキュラム改善の支援者として, 実施者(アクター)としての視点のみならず設計者(デザイナー)の視点を持つことと, 経験知としてのノウハウのみならず学問的背景を説明できることが異分野の研究者を説得するために有用であることを主張した。

IDポータルにて情報公開中: <http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/a91219jsetkufs.pdf>

